

多くの職員に出迎 えられての初登庁か ら早いもので1年が 過ぎました。平成 29(2017)年2月に 小樽市役所を早期に 退職し、1年半にわ



たる戦いに勝利できたのは多くの市民の皆様のご支援 によるものと深く感謝しております。そして、その思 いを胸にいただいたご支援にしっかりとお応えするこ とが私の使命だと思っています。

## 市長就任一年を振り返って

まず、この1年間を振り返ってみたいと思います。 小樽みらい会議代表として1年半の活動を通じて多く の皆様からいただいたご意見の中で、最も多かったの が「除排雪」の問題でした。このため、就任後いち早 くこの問題に取り組みました。除雪体制を強化し、さ らに。降雪期が早くなっていることから、「除雪対策本 部」をこれまでよりも半月早く発足させました。また、 バス路線や通学路を中心に早くに排雪を開始したこと や雪山の解消に努めたことで、市民の皆さまにも安心 していただいたと感じています。ただ、例年に比べる と降雪が少なかったこともあり、評価はこれからです が、さらに改善に努めます。 市長に当選した10日後、胆振東部地震が本市を襲いました。地震による被災はありませんでしたが、全電源喪失(ブラックアウト)によって、市内は最長で2日半の停電に見舞われました。即座に災害対策本部を起ち上げ対応にあたりましたが、市民の皆様への情報伝達が十分でなかったとのご指摘がありました。コミュニティ放送であるエフエム小樽の協力もいただきましたが、市内の蘭島や銭函など「難聴地域」の解消は急務と感じました。このため、現在、「難聴地域」の解消のための調査を実施しています。また、指定避難所には非常用電源を配備することとしました。

これらは、いずれも私が掲げた政治姿勢の一つ「市 民の生活の安全、安心に備える」ものです。

次に、海上技術学校(以下「海技学校」)の存続問題です。平成29(2017)年7月に同校の老朽化により、国から廃校の方針が示されました。市長に就任当初、市



は解決策を見出せないでいましたが、まずは、「受け皿」 を決める必要があったことから、北海道教育委員会に 令和2(2020)年3月に廃校となる道立小樽商業高校







の譲渡を打診し、その上で、国土交通省海事局や独立 行政法人海技教育機構に海技学校存続の要請を重ねま した。小樽市議会にも海技学校存続の決議いただきま した。中村裕之衆議院議員(写真)にも奔走いただき、 本年4月、海技教育の高度化を目的に、海上技術短期 大学校として小樽への存続が決まりました。令和3 (2021)年4月からは、小樽商科大学と海上技術 短期大学校が隣接する新たな文教地区が形成されるこ とになります。

1年半の間、小樽みらい会議での活動を通じて多く の市民の皆様からいただいたご意見などから感じたこ とは、「行政と市民との距離感」でした。この距離感 を解消するために掲げた政治姿勢が「対話の重視」で した。除雪の問題もそうでしたが、たとえば、子育て 世代の方々からは公園の整備について多くのご意見を いただきました。このため、今年度の公園整備にあ たっては、地域の皆様のご意見を伺いながら、遊具の 種類などを決めることにしました。また、就任当初か ら月に二回、「明日に向かってスクラムトライ!」と いうエフエム小樽の番組に出演していますが、見落と しがちな身近な地域の問題についてご指摘もいただい ており、番組を通じて「対話 | を重ねております。も ちろん、2030年に開通予定の北海道新幹線を活用 したまちづくりや、小樽港第3号ふ頭周辺の整備など 経済界の皆様との意見交換も精力的に進めています。

## 山積する課題への取り組み

一方、課題の多さも実感しています。人口の減少や少子高齢化は本市にとっては大きな課題です。特に、昨年の出生数484人は20年前の半分で少子化は深刻です。このため、若い世代の方々の市外への流出に歯止めをかけることが重要と考えています。若い世代の方々が小樽で安心して子育てができ、働くことのできる環境を整備する施策が急務です。

また、表にあるとおり、日本人の平均寿命が延びる

	平均寿命(2018年)	健康寿命(2016年)
男 性	81.25歳	72.14歳
女性	87.32歳	74.49歳

中で、健康寿命との間には「開き」があり本市も同様です。介護や医療など予防行政に力を入れ、お一人お一人の健康寿命を延ばすことは健康問題はもとより、社会保障の観点からも重要な課題と認識しています。

経済面では、大型のクルーズ客船に対応するため、現在、小樽港第3号ふ頭を整備中ですが、クルーズ客船のさらなる誘致に努めます。また、年間800万人の観光客がありますが、アジア圏からの訪日観光客に支えられている感があり、将来に向けた持続性のある観光戦略を考えます。「歴史・文化」、「海・みなと」は他のまちにはない小樽ならではの強みであり、これをしっかりと活かしていく必要があります。



残りの任期は3年。私が掲げた3つの政治姿勢のうち「対話の重視」「市民生活の安全、安心への備え」には道筋をつけることができたと感じています。

残りの一つ「経済と生活の好循環」を実現することが、残りの任期での最大の課題と認識しています。そのためには、地域経済を活性化し、雇用、税収を確保することで、人口の減少に歯止めをかけ、さらには安全で安心な生活を実現したいと考えています。







